

第5回 尼崎市立中学校給食検討委員会次第

と き 平成28年11月1日(火)
午後6時00分～午後8時00分
ところ 尼崎市役所 北館3階
教育委員会室

1 開 会

2 協議事項

(1) 第4回検討委員会議事要旨の確認

(2) 各実施方式の意見交換等

① デリバリー弁当方式、親子方式の協議

② 視察等を踏まえた各実施方式についての委員意見(前回の意見まとめ)

③ 視察やこれまでの協議を踏まえた給食実施にあたっての意見集約の方法と今後のスケジュールについて

3 事務連絡

(1) 次回の日程調整について

以 上

○各実施方式についての各委員の意見（まとめ）

No.	項目	意見
(1)	全体的なこと について	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの実施方式もメリットデメリットはある。デメリットも工夫すれば解消できる点も多い。きちんとしたシステムづくりが大事。 ・色々な実施方式のいい部分を取り入れながら一番いい「尼崎市らしさ」が出ればよい。 ・色々な要因を踏まえ、尼崎市の中学生や保護者にとって最適な実施方式の選択について議論をしていきたい。 ・他市は他市でベストもしくはベターな実施方式の選択をしているため、尼崎市も尼崎市の事情に応じた実施方式の選択が必要である。 ・どの実施方式であれ尼崎市の小学校給食のレベルが保てるようにデメリットは改善して取り組んでいく必要がある。 ・小学校で実施されている<u>アレルギー対応</u>や<u>衛生管理対策</u>などレベルの高い給食のノウハウを中学校へ生かす必要がある。（※重複掲載） ・小学校給食のおいしさ、「尼崎市らしさ」を続けてほしい。 ・みんなが同じものを食べる給食は良い。 ・一番大事なのは子どもたちが昼食を食べながら語り合い、仲間づくりをしたり人間関係を構築することである。 ・尼崎市らしさ、20年・30年先を考えてよいものを作り、全国から見学をしてもらえればよい。
(2)	衛生管理につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センター方式は大量生産のため食中毒発生時には広がる可能性がある。 ・最新の設備で集中的に徹底した衛生管理を行うことで食中毒リスクが軽減されるのではないかな。 ・いずれの実施方式でも完璧を目指して管理を行う必要がある。そのためには食中毒防止策やマニュアルづくりによる徹底が大事である。 ・小学校で実施されている<u>アレルギー対応</u>や<u>衛生管理対策</u>などレベルの高い給食のノウハウを中学校へ生かす必要がある。（※重複掲載） ・規模に関わらず食中毒は発生させてはならない。何万食も調理している工場では完全な管理体制でコントロールしている。

(3)	アレルギー対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で実施されているアレルギー対応や衛生管理対策などレベルの高い給食のノウハウを中学校へ生かす必要がある。(※重複掲載) ・給食センターではアレルギー対応室を設置することが可能。
(4)	食育等について	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で中学校における食育が位置づけられているため、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成、小中学校のつながりや連続性から小学校と同じ方式での実施が望ましいのではないかと。 ・直接調理師に会ってお礼が言える環境は良いが、中学校に給食室を設けるのは大変である。 ・自校調理方式は感謝の気持ちを直接伝えることから始める食育が可能である。給食センター方式は調理師が各学校へ出向いたり、社会科見学で子どもたちが訪れることも可能である。 ・中学生、という成長した段階での新たな食育の取り組みが必要。感謝だけではなく将来の生活習慣病の予防のための食事や食品を選ぶスキルや後々の人生に向かっての食育などへの取り組みが必要である。 ・中学生であっても教育的にも調理員との交流が必要である。 ・調理員との交流はいろいろな手法があり、実施方式に関わらず給食に携わっている人との交流は大事である。
(5)	学校運営、教育環境等について	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の尼崎市の中学校校舎は廊下が狭く、生徒動線や給食運搬時の安全確保に留意する必要がある。 ・中学校で給食を実施するにあたっての施設整備がきちんとなされるかどうかで給食に影響が出る。古くから給食を実施している自治体はその給食の実施方式に見合った学校施設になっている。 ・親子方式の場合、親校（小学校）での配送車両が子どもたちの学校活動や安全面で支障がないようにしなければならない。また新たに小学校で中学校用のコンテナ倉庫の確保が課題になってくる。 ・給食室は約 6 教室分のスペースが必要であり、そのスペースが現在の中学校からなくなってしまうことになるため、クラブ活動を含め子どもたちの活動場所が狭められるのはいかなものか。 ・限りある校舎の施設、敷地の広さなど多角的に検討する必要がある。 ・中学校でまた工事が始まることについて子どもへの学習環境の影響、近隣住民への影響を心配する。

(6)

その他

・地元野菜を使用するなどができればよい。

※その他、給食室や給食センターの防災機能についても意見があり、被災時の給食室や給食センターでの炊き出しや備蓄についての意見交換がなされた。(詳細は議事録のとおり)